まちづくりワークショップ研修－計画立案や協同学習のための討論技術習得講座

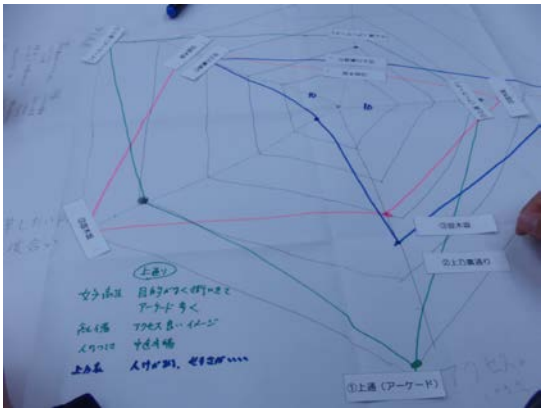
第２回（2013.02.01）　「15 の品に優先順位を付ける順列は１兆３千億通りある」ホント！

第二回目は（平成 25 年 2 月 1 日）、「コトの本質を多面的に捉える」がテーマに、「空き缶シャッフル」をやった。

例えば、私たちは、犬に「カワイイ」、「忠実」、「賢い」など多面的な特性を見る。「あいつは敵国のイヌだ」という場合は嗅覚の鋭い“スパイ”という意味になる。では、「上通商店街って、どんなまち」と聞かれたらなんと答えるか。明確な言葉で、まちの多様な表情、特性を語れるだろうか。実は、１つのモノゴトを多面的に、具体的な言葉で語れることが計画づくりの基本中の基本だ。具体的な言葉でないなら、行動にはつながらない。

実際、熊本市中心部の上通、下通、新市街、並木坂、上乃裏通、鶴屋百貨店など、様々な通りや店を、私たちはどのような言葉で認識しているのだろうか。端的に、どこが一番好きかと聞かれた場合、どのような理由でどこを一番に挙げるだろうか。まちの商店主たちは、その答を知っているだろうか。あるいは、自分なりに答が予想できており、それに基づいてまちづくり・店づくりをしているだろうか。それは奏功しているだろうか・・？

ところで、15 の品を好きな順に並べる順列はなんと１兆３千億通りもある（＝15×14×13×・・・・・×１）。でも、結構みんなの考えは似ている。とても１兆通りものバリエーションがあるとは思えない。では、みんなは何に基づいて判断しているのだろう。それが分かったらいろんな計画に役立ちそうだ！・・・その判断基準の言葉をひきだすためのワークショップが「空き缶シャッフル」である。空き缶 15 本（種類）を、例えば、健康志向の強い順、男性向き度合いなどで優劣を付けて並べる。その作業の中で、それぞれの品の特性を多面的に、具体的な言葉で語ることができる。空き缶を、通りや店の名を書いたカードに置き換えれば、まちづくりの話し合いになる。順位そのものはさほど重要ではない。対話の中で紡ぎ出される生きた言葉が大事。（まちなか工房の研究室に所属し、まちをフィールドに論文を書いている学生諸君、どうよ！？）



文責・講師：前田（工房研究員 20130201）